

医学物理士養成コースの開設

岡山大学大学院保健学研究科 教授 加藤 博和

近年、多くの国立・公立・私立病院にて放射線治療における過剰照射や過小照射が発生し、社会の関心を集めている。一方、放射線治療は非常に高度化され、粒子線治療、IMRT(強度変調放射線治療)等により治療成績が、特に米国では劇的に上昇している。

このような中、がん対策推進基本計画で、特に放射線療法が重視され、「特に、放射線療法については、近年の放射線療法の高度化等に対応するため、放射線治療計画を立てたり、物理的な制度管理を支援したりする人材の確保が望ましい」と記載され、医学物理士の養成が望まれている。文部科学省は、がんに関わる人材養成・研究推進をはかるため、「がんプロフェッショナル養成プラン」を公募し、岡山大学が担当校となる、「中国・四国広域がん医療人養成コンソーシアム」が採択された。これは中四国の8大学と多数のがん診療連携拠点病院が織りなすコンソーシアムであり、期間は、平成19年度から23年度である。この中に岡山大学、徳島大学、高知大学が連携する医学物理士養成コースと、医学物理士・放射線治療品質管理士インテンシブコースがある。

医学物理士認定制度は、米国においてはすでに確立し、診断医学物理士、核医学物理士、治療医学物理士がある。理工系大学院を修了した医学物理士5,000人が臨床に従事している。日本では日本医学放射線学会、日本医学物理学会が認めた医学物理士制度があり、300名が資格を有している。しかしながら国家資格ではないことから医学物理士の資格を有しても臨床に携わることはできないのが現状である。このような中、医学物理士の養成を大学院で行うことになったのは、放射線治療において大きな前進と考えられる。

医学物理士養成コースは、大学院の博士前期課程に設置され、岡山大学大学院保健学研究科放射線技術科学分野、徳島大学大学院保健科学教育部保健学専攻、高知大学大学院医学研究科生命医学系・病理病態制御部門が担当となる。博士前期課程修了に必要な単位の中で、医学物理士養成コースを修了するには、コース内共通科目(岡山大学では放射線治療品質管理学特論と放射線治療品質管理学実習)と大学間共通科目を履修する必要がある。受入人数(単年度)は、岡山大学が2名、徳島大学が1名、そして高知大学が2～3名である。

医学物理士・放射線治療品質管理士インテンシブコースは、社会人を対象としたものであり、年3回程度の講習会を開催する予定である。